

かずさの博物誌

四季のオオタカ

～冬に水鳥を襲う～

文・写真／成田篤彦

2012.10.20



©成田篤彦

▲オオタカ成鳥 早春＝タカ目 タカ科 中型のタカ、トビより小さい。川岸の大木でコガモをねらう。県指定重要保護生物(Bランク)
(2012年2月20日)



©成田篤彦

▲オオタカ幼鳥 夏＝市街地でドバトをねらう。
(2012年8月18日)

親から巣の外でえさをもらい、また、巣に帰って来たのだろう。晩夏になると幼鳥がやってくる。



©成田篤彦

▲オオタカ成鳥 冬＝捕えたドバトを食べていた。上空にカラスが舞うとつばさで獲物をさっとおおった。(2009年12月23日)

二月になるともう繁殖期が始まる。

オオタカは森林で繁殖する中型のタカで、森の生態ピラミッドの頂点にいる。彼らの繁殖は自然の豊かさの証である。また、オオタカは絶滅のおそれのある野生動物植物の種の保存に関する法律により、保護されている。一方では、飛行が速いので古来鷹狩りに使われてきた。私はめったに見ないオオタカに会うとその日一日、得した気分になる。なぜなら、タカの中でもりりしく威風が感じられるからだ。ここ数年間は一時よりもオオタカに出会う機会が多くなった。そこで、四季のそれぞれのオオタカについて紹介したいと思う。

〈春〉二月下旬、台地の奥深い里山。谷津田の水溜まりには、アカガエルが産卵している。シイ・カシとコナラやスギが混じる林で、「ギツギツ、

この時期、盛んになる。この台地の周辺にオオタカの巣があるはずだ。しかし、彼らの子育ての邪魔をしたくないので、巣を探す気はなかった。

四月末の夕刻、成鳥が脚に小鳥をつかんで、水田地帯から台地の雑木林に向かって飛ぶ姿を見た。もうヒナがかえっているのかもしれない。〈夏〉初夏に河川のヨシ原の上空を悠然と旋回している姿を見る。そこで、激しくさえずっているオオヨシキリをねらっているのだろうか？

今は開発され、建物が立っている場所で、六月の下旬に巣とヒナを見た。巣は湿気を含んだ杉林の高さ約六mの場所にあり、ヒナは巣を離れ、また巣に戻って来た。恐らくヒナは



©成田篤彦

▲オオタカ成鳥 初夏＝水田の上空を旋回する。(2010年5月5日)

ギツギツ」鋭く甲高い鳴き声が何度も響き渡った。成鳥のオオタカが堰の上の澄んだ青空をゆったりと旋回している。彼らの繁殖行動は

〈秋〉ヨシ原、はず田などで毎年必ず幼鳥を見る。ある時は市街地の小学校脇の電信柱にドバトをねらって止まっていた。



©成田篤彦

▲オオタカ成鳥 秋＝強風の中、カメラのシャッター音で飛び去った。(2010年11月22日)

ちょうど幼鳥が新天地を求めて、狩をしながら、各地へ移動している時で多くの幼鳥に会える季節だ。また、晩秋の夕方、ムクドリ群れが川岸のアズマネザサのねぐらに潜り込む。それを若鳥が近くの大木に隠れて待っている。闇夜になる直前、猛スピードで水平に突っ込んで、ねぐらにいる約三〇〇羽のムクドリを襲う。寒くなるにつれて、冬鳥が集まる場所でオオタカと出会うことが多くなる。

〈冬〉オオタカが多数の水鳥たちが越冬する河川、湿地、海岸のヨシ原などに姿を現し、最も多く成鳥や若鳥が見られる時節である。

しばしば、カモの大群が越冬している岸辺の大木の枝にオオタカが一羽ひっそりと止まっている。枝に溶け込み、孤独で寂しげだが、水面をにらむ鋭い眼が光る。私が最も好きなオオタカがいる情景である。